

## 1 防災について

## (1) 海上保安庁の英科学誌ネイチャーの発表について

南海トラフ地震の想定震源域に、蓄積しているひずみの詳細な分布が発表された。その分析で、東海地震の想定震源域がある静岡県沖のほか愛知・三重県沖、四国沖から日向灘でひずみが大きいことを突き止めた。ひずみが大きい場所はM8級の昭和東南海・南海地震の震源域の外側に伸びている。これらの地震でひずみが解放されず、長期にわたり蓄積しているとみられ、海保は次の地震が起きやすい場所とみている。東海地震について気象庁は、静岡県沖の震源域とM8程度の規模を想定してきたが、今回の結果は震源域がさらに南西に延びる可能性を示している。気象庁判定会の平田直会長は「次の東海地震は現在の想定より大きくなる可能性がある。解析結果を検証した後、想定の見直しが必要と考えられる」と指摘した。この指摘を踏まえ市の見解を伺う。

この指摘を受け、今後どのような防災対策を実施されるのかを伺う。

## (2) 市職員の熊本地震被災地派遣後の報告について

電子機器を持たない人にも情報が伝わる情報発信力の強化が重要、との報道があったが、どのような情報発信力の強化を考えているのか伺う。

行政職員と負担を分担できる自主防災組織の育成が重要、との報道があったが、どのような育成を考えているのか伺う。

## (3) 避難所運営について

## 避難所の性別配慮について

ア 内閣府による熊本地震の調査で、避難所で暮らす女性が「授乳や着替えの場所がない」「下着を干しにくい」といった悩みを抱えストレスの一因となっている実態が分かった。女性や子育て家庭に配慮した避難所が必要と考えるが見解と対応を伺う。

イ 女性職員の防災担当者を多く配置し、対策に女性の意見を取り入れる事が重要と思われるが、見解と対応を伺う。

## 避難所トイレの環境について

ア 2013年内閣府が出した「男女共同参画の防災・復興の取り組みの指針」の解説・事例集では「安全で行きやすい場所の鍵を設置した男女別トイレ」が挙げられている。見解と対応を伺う。

## 福祉避難所について

ア 災害時に支援が必要な要支援者や乳幼児、障害者、要介護の高齢者、特別の配慮を必要とする要配慮者の想定人数と福祉避難所開設予定場所は。

イ 福祉避難所で避難者に対応できる人員数及び物資は。

ウ 発達障害児の避難所対応について伺う。

## 食物アレルギーの子への避難所対応について

ア 避難所の配給の多くが食べられない。食物アレルギーがある子は「食べたら死んでしまうかもしれない」という恐怖を抱えています。親も「成分が分からない物は与えられない」と話します。対応食に対する見解と対応を伺う。

水が不足しがちな災害時に有効な乳児用液体ミルクの備蓄についての対応を伺う。

常温で保存している食品は、傷みやすくなるのに加え、食べる際も十分に加熱できず、滅菌できない可能性があり、避難生活が長引き、免疫力が落ちている状態では、集団食中毒（ノロウイルス）や感染症（インフルエンザ）が発症しやすくなるを考えるが対策について伺う。

段ボールベッドや仕切り（布製、段ボール）の整備について対応を伺う。

## 震災関連死の予防について

ア ハイリスク予備軍に対するケアについて対応を伺う。

イ プライバシー確保の点から車中泊を選ぶことによるエコノミークラス症候群などの震災関連死について対応を伺う。

ウ エコノミークラス症候群を防ぐ効果のある「弾性ストッキング」の備蓄についての対応を伺う。

防災施策への男女共同参画の視点の導入について

ア 女性への対応が遅れる要因として、災害時は「まず食べ物」という認識が強く、着替えや授乳、男女別トイレ等に女性が声を上げる状態にない。この為にも女性リーダーが必要である。災害時にきめ細やかな避難所運営を可能にするためにも、防災会議に参加する女性委員を増やし、自主防災会に女性役員・会員を増やすよう働きかけ、女性目線の防災対策を進めることが必要と思うが、見解と対応を伺う。

ペット同行の受け入れ態勢について見解と対応を伺う。

(4) 耐震性について

現況の耐震基準は熊本地震の様な強い揺れの続発を想定していないが、本・支庁舎と指定避難所、災害拠点病院である市立総合病院の耐震性を伺う。

熊本地震では一部の処理施設が破損し稼働を停止した。復旧とともに災害ごみや生活ごみが排出され処分量が膨大になることが想定される。現況の耐震基準は強い揺れの続発を想定していないが、クリーンセンターや衛生プラントの耐震性を伺う。

上記、の各施設の今後の対応を伺う。

(5) SNS及び市HPについて

防災SNSしっぺいの「ツイッター」での投稿方法を伺う。

複数の職員が対応できるのが望ましいと思うが、現状の運用実態と今後の対応を伺う。

フェイスブックの活用について見解を伺う。

先日の河川クリーンアップ作戦で、同報無線が聞き取りにくく、市のHPにアクセスしたが、同報無線の内容についての記載がなかった。緊急的な広報に対する市HPの見解と対応について伺う。

(6) 罹災証明の手続きについて

熊本地震では、発行申請が4万7千件と多く、職員が避難所運営などに忙殺され、庁舎の被災により手続きが遅れたが、本市が被災した場合の住宅被害の判定や、発行手続きについての想定と今後の対応を伺う。

(7) 仮設住宅について

仮設住宅用の市内における候補用地を伺う。

仮設住宅用地が地割れや地盤沈下し被災した場合の対応を伺う。

2 スポーツの環境について

(1) 中学生のスポーツについて

スポーツ部活の入部希望者の実態は。

スポーツ部活を陸上競技、ラグビーにした理由と今後の展開への考え方は。

今後しっかり活動するための環境を整えたいとのことだが、どのように環境を整えるのか伺う。

(2) 教員負担の軽減と、生徒の技術向上について

中学部活指導へ民間事業者(コーチ)への委託や、非常勤講師やOB教員の登用による教員負担の軽減と、生徒の技術向上についての見解と対応を伺う。

(3) 野球に対する支援について

磐田市内の高校が甲子園に出場し活躍するのを夢みる。それは、多くの市民の願いであると確信するが、その夢に対する見解を伺う。

浜松市中学野球国際親善育成会などが主催し台湾で開催される親善大会へ派遣をしている。中学生は40人の選抜チームに選ばれる為に、チャンスをつかみ取ろうと選考会に臨んでいる。高校でも野球を続けてくれるよう、選考会がモチベーションを上げるきっかけになるように考えたものだ。市内の高校が甲子園に出場し活躍することを期待して、市内中学生を国際親善中学野球大会台湾大会等に派遣する考えについて伺う。

高校でも野球を続けてくれるようモチベーションを上げるきっかけ作りへの考えを伺う。

(4) 人工芝の活用について

福岡大学では人工芝のラグビー場があり、公式戦にも使われている。人工芝はふかふかして柔らかく、土のグラウンドと違い擦過傷になりにくく、雨でも水はけが良く、グラウンド整備が不要で管理がしやすく、転んでもいたくないという。このような利点は子供にも向いているとの報道があった。従来、本市では天然芝で学校の芝生グラウンド整備を行ってきたが、この人工芝を研究し、さらに人工芝の特性を生かしたグラウンド整備に対する考えを伺う。